

庁議の概要

開催日 平成26年5月12日(月)

◎項目

- 1 縣市連携の推進について【総務部】
- 2 各部局等の今週の動きについて【各部局等】

◎内容

1 縣市連携の推進について【総務部】

総務部より、資料に基づき縣市連携の推進について説明が行われた。

<説明の概要>

高知市との間で今年度についても、知事と高知市長による縣市連携会議を開き、各種重要事項について連携をしていく。8月26日を予定している。

事前段階として、今年度についても高知市から協議を行いたいとの申し出があった。県としても、高知市に取り組んでいただきたいこともあるので、積極的にこの機会を活用していただきたい。高知市の担当部局から県の関係部局に協議の申し入れが来ることになっているが、県の側で必要がある場合には、高知市に対して申し入れを行って、積極的に協議をいただきたい。

協議の内容について、政策企画課で全体を把握する必要があるので、協議項目、日程を事前に連絡いただくとともに、協議終了後は概要報告の提出をお願いする。

2 各部局等の今週の動きについて【各部局等】

総務部が取りまとめた各部局等の今週の動きに関する資料を配付の上、各部局による概要説明及び協議が行われた。

<主な協議の概要>

○獣医師の確保について

(農業振興部)

獣医師の確保対策について、現在何とかやっている状況であるが、例えば、先般の鳥インフルエンザが発生したとかいった状況になると対応が厳しいという現実がある。そのため、修学資金制度の復活や獣医科大学での説明会などいろいろと取り組んでいる。連休前から各大学を回っており、今週もいくつかの大学を回るようにしている。

健康政策部とも連携して取り組んでおり、高知を選んでいただけるように進めていきたい。ただ、傾向として、大動物から小動物への流れなどにより、地方の大動物を扱うところになかなか集まらないといった実態もある。これをクリアしていくために、県職員の関係者が通っているといった個々の情報も活用して、少しずつネットワークを広げていくような対応も必要と思っている。

(総務部)

大学へは誰が回っているのか。

(農業振興部)

課長やチーフが行くようにしている。健康政策部と連携してやっている。

(総務部)

もともと公務員になる人数が限られている中で、大学の先輩後輩のつながりや働きかけがきっかけになるという話も聞いたことがある。年齢が比較的近い職員が行くとか、顔見知りで攻めるとかして、獣医師の確保をお願いしたい。

(農業振興部)

はい。学校を通じて情報を得ることは難しい状況であるが、例えば、職員の関係者がそうした大学にいたといった情報があれば、そういったところから広げていくような形でやっていきたいと思っている。

○カツオ資源に関する情報交換会について

(水産振興部)

5月10日(土)にカツオ資源の情報交換会を水産会館で行った。水産庁から資源管理部長はじめ3名が、水産総合研究所からも研究部長に来ていただいた。かなり関心が高く、漁業関係者約50人の参加があった。水産庁から、今の資源の状況と国際的な協議の状況等について、資料を用いて詳しく説明が行われ、高知県側の漁業者から、巻き網についてしっかり規制をお願いしたいといった意見があった。資源の状況などについて、客観的に参加者の皆さんの理解が深まったと思う。

(知事)

資源の管理について、水産庁から具体的に動くという話はあったか。

(水産振興部)

資源管理については、島嶼国との関係などいろいろ難しい問題があるが、カツオ資源に関して日本は縁辺部に当たり、圧倒的に赤道付近に資源がある。600万トンの漁獲量のうち日本は10万トン、600分の10となっている。そこをどう守っていくかということについて、全体の資源評価では今、過剰漁獲になっていないという評価がされているが、縁辺部ではもう減ってきていると。中心部にはいるけれども、その範囲が縮小、縮減しているというような主張を客観的なデータを用いてやっていきたいということで、一定本腰を入れて取り組みたいという話があった。